

2. 宗像市の地形・地質の概況

宗像市の地形は島嶼・海浜・低地（沖積地）・台地（段丘）・丘陵地・山地に分けられる。市域中心の東郷地区と赤間地区は釣川水系の集水域であり、200 から 500mの山地が市域中心を馬蹄状に囲み、北西方向に開いている。以下に地形とそれを構成する地質を記述する。

島嶼のうち、玄界灘にうかぶ沖ノ島は海底から突きだした急峻な山地で、（新生代第三紀層火砕岩と砂岩頁岩互層）からなる浸食残丘である。沖ノ島の最高地点（243m）と主部は北西に 30° 傾斜する厚さ約 200mの火砕岩からなり、これが玄界灘の北西の季節風と高波浪に抵抗して浸食を免れたと考えられる。大島・地島は全体に丘陵性山地である。地質は、中生代白亜紀の関門層群の安山岩溶岩と凝灰角礫岩からなる。大島と地島の海岸線は切り立った海食崖となっており、しばしば海食洞が発達している。大島北西端の神崎鼻から池尻川との間の海岸にのみ第三紀の砂岩礫岩層が分布し、海岸に小露出がある。

海浜と海岸砂丘は玄海地区にのみ発達する。海浜とその背後の砂丘は完新世の新砂丘砂層からなり、さらに内陸の新砂丘の下に更新世の古砂丘砂層が存在する。

沖積低地は釣川とその支流に沿って玄海地区、東郷地区、赤間地区に分布し、細長い河谷と谷底平野を形成している。

台地（段丘）は古い河岸段丘と扇状地からなり、低位段丘、中位段丘、高位段丘に細分できる。段丘構成層は砂礫であるが古さによる風化程度の違いが見られる。玄海地区では低位段丘と中位段丘が鐘崎付近に分布している。東郷地区、赤間地区では釣川支流の上流部に分布している。

丘陵地は玄海地区、東郷地区、赤間地区の大部分を占め、古第三紀堆積岩類と花崗岩類からなる。玄海地区玄海ニュータウン付近と東郷地区光岡付近の緩い丘陵は高位段丘であるが、浸食で面が解析されてしまい、「馬の背」状の尾根や丘陵をつくっている。高位段丘層は強く風化されて残積土は赤色土化しており、礫はハンマーでたやすく切れるほど強風化が進んでいて、「クサリ礫」と呼ばれる。古第三紀堆積岩類と花崗岩類も強風化のため軟岩となっている。

山地は第三紀堆積岩類、白亜紀花崗岩類・安山岩類・堆積岩類から構成されている。南部地区の磯辺山付近の急峻な山地には三郡変成岩類（主に結晶片岩）の硬い岩石が分布する。安山岩類と変成岩類のつくる山地は硬く浸食に強いため、浸食から免れて高い山地をつくっている。

表 2-1 宗像市をつくる地質の区分表

地層形成時期	地質時代		地層単元		含まれる火山 灰層（千年前）	
	新生代 第四紀	完新世	沖積地 堆積物	新砂丘 堆積物		K-Ah(6.3)
現在～1 万年前		更新世	後期	低位段丘礫層	古砂丘堆積物	AT(25)
2～8 万年前 9 万年前 11～16 万年前				中位段丘礫層		Aso-4(90)
20～60 万年前	中期		高位段丘礫層	Yfg(600)		
5 千万年前	新生代第三紀		堆積岩類（頁岩・ 砂岩・礫岩・ 火砕岩・石炭）			
9 千万年前 1 億年前	中生代白亜紀		花崗岩類 安山岩類 堆積岩類			
2～3 億年前	古生代		変成岩類			

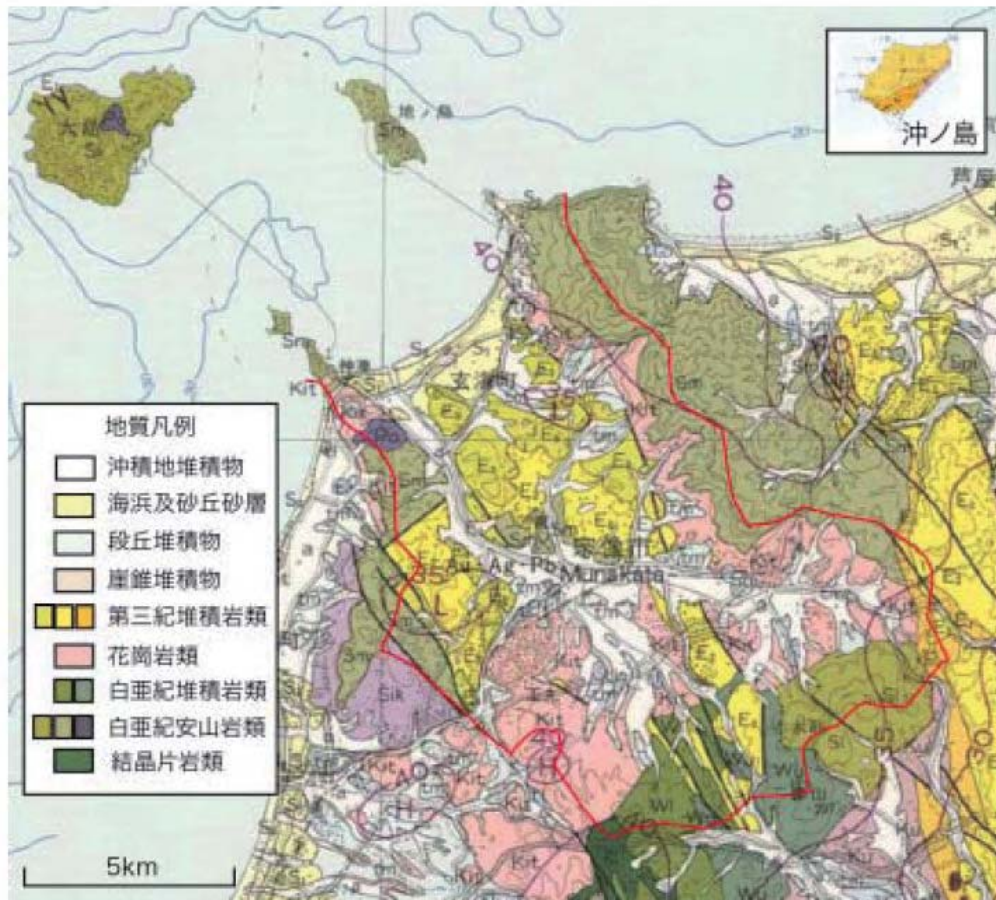


図 2-1 宗像市の地質図

地質調査所の 20 万分の 1 地質図「福岡」と福岡県の土地分類基本調査「神湊」の 5 万分の 1 表層地質図を使用した。